中村俊定文庫
文庫 18
661

中村俊定文庫

解題を示す式亭志てくらのゑ[illegible]
すと南甘菴紀行に今日見たのうめ[illegible]
はまつきみやゝ[illegible]
と志しゝ世きき志花乃俗[illegible]
ゆくゝゝ遠知き[illegible]
世第式[illegible]

寛政二戊申年

龍雨
眉山

[illegible]
てきゝゝや柳[illegible]
のうゝみさゝ[illegible]
乃[illegible]
き[illegible]
侍る

歌仙

芭蕉堂

宗匠　冥丸

雲の名残り宮つ子の涙あまた　眉山

業人ちらちら神さびむ月　珍卜

雲の目乃光りもとき霜の夜　素玉

霧乃中　冬笠の行方　似休

涼風や星の時の時雨　麦秀

ちらちらと雪となる刈稲

一

市陵や恋ふ〻〻霧の行方　柳汀

みちのくの山ぶしの月　鶴山

降雪や腰帯たる男共　犀邑

鯨骨を乾く中ふきの音　岐子

佛松彩あるの新もやし　馬涼

摺ふ〻なまぬる頃　玻丹

なりくる同一新きさの月　木鳴

獲物の多きの清の蕎麦の稔畑　文朝

[illegible]山　常陸
鬱乃郎　[illegible]下荻　陸奥
春[illegible]仕[illegible]　眉山
彼[illegible]　[illegible]ト
[illegible]　[illegible]貝　[illegible]
[illegible]　[illegible]　仙体
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　柳行

[illegible]の海原の[illegible]　荻山
[illegible]　岐子
[illegible]　[illegible]邑
[illegible]　馬涼
[illegible]の月　[illegible]井
[illegible]　木嶋
[illegible]世の[illegible]や　常陸
[illegible]　文朝

世[illegible]の四季は霞明けやまれば　陸奥
面影[illegible]湾[illegible]越　柳行
車戸[illegible]　[illegible]　素玉
清風[illegible]山[illegible]　眉山
[illegible]の[illegible]　枝下
[illegible]　筆

春

[illegible]江乃柳　宗文　浜東山
[illegible]　眉山
[illegible]　東蓋
二三[illegible]梅[illegible]　百地
[illegible]　月丹
梅乃花[illegible]　定雅

夕雲や雲にとまりく梅薫る　得倫
百年や初花紅葉の月　月峰
芙蓉や月侍所乃新酒　蝶夏
すゝきや春の涙や馬刀乃売　浪宏　二柳
痔横乃ゆかり　橘の由　大和　一の葉
四ツ山や苔乃ゆかり　勢州　世々也
砂丘や見ぬ人ぞ雅子　之由
花ちり人の世や春一夜　美州　巨川

糸乃帰四ツ手ゆかり　毎月　柳文
書捨てゝ市のさゝみ　鬼雀

江ぶねのふみ苔ゆかり　越前　波丈
梅ゝ木ゝ続き　加州　岩遠
雪ゝや生大根　書こう　馬佛
能乃巻月を出ず　夕雲　風爺
山陰の梢ゝ月を　いのの　一柳

春日野の若竹　素々
下萌の雪の消ゆる　那春
梅の花ふるなけきの杉戸　卜木
増ふるを梅くうふる石の苔　巨歩
清水の下柳　志ふる江の野　二笑
集すすまとまつの柳　梅歳
夢乃の校柳　ふるかな　文々
日の宮や桃よりも　牛の春　後川

神垣や山ぬきの牛の股　越中　丹房
蔦つくや夕ぬれの清水　文弄

、

乃ぶや春の汗ほしと小袖　播州　書羅
苔ふる梅の花かくれ　備前　青鷺
乾坤の柳ふる雪の面　摂津　夏夕
蛙鳴く一夜行ふり初横　丹後　武陵
山吹や奥迄ふる柳の重　上州　鶴字

芝垣ゆ出る時や秋月　多湖
しらぬまとゆふうきてみる井戸　薩州　子規
灯ゆくえ裏梅ちらでゆる　尾州　嘯玉
山陰や帆よ蔦こぬ春の雪　紀州　玉史
蔦の葉ひとり向ふ星ひとり　大牙
春風乃浮世絵の裏ぬきみ　住都
菊行の雪と吹こぬ小雪橋　春波
りりつまこく梅乃白ひのもれ　庫蘇

春風や市戸ゆ深し一牛の声　一芝
出ぬこゆ高ゆ高ゆ小舟　波淫
高山や雉ゆ鳴ゆ樟松　岸芷
月屋の砂ゆ柳ゆ白い　乙蕉
紫稽乃高ゆ遠し山さく　金毛
梅白く夕ゆ見ふ燈ゆ　木唐
清ゆすく水ゆ樹ゆ　荷蘇
清ゆ奥ゆ屋根ゆ芝つく菫　菓子

蓑とかさ桶乃田螺の秋哉　六窓

、

秋哉やたゝら吹峠の松　黒斉　寄皐

蓑かさ蓑か山の落木乃桂哉　柳汀

蓑か入や蓑で遠きあるき哉　琴歩

樫や行くと空もまさる新煙　布莊

神口や柳ゝるふる書戸ふ　文坊

蓑行や横ゝもぬく春の風　素丑

行きゝ山ゝ行や紙ゝ吹峠　秋の人通り　梨邑

山陰や月ゝ出ゝ雲ゝ　馬涼

新ゝや蓑ゝ帰ゝ　楚東

涼蓑ゝつきゝ柳ゝ　岐子

涼新や蓑ゝ蓑の寸ふ陸　新山

やゝ月ゝ出ゝ雲ゝ　猫蓑　麦秀

蓑風や卯金ゝ竹新　仙休

尾蟬ゝ涼ゝ秋ゝ　文彩

桃咲やつよに移して見る我　桂卜
花落ちて与りたき顔や桂翁　ゝ
はなまちやらぬ霞の帰りかけの桜　ゝ

夏

涼風の背中に通りて松に移り　紀州 芳蘭
田より持る朝麻の紋帳よまゝ何ぞ　兔祇
ゐ中まで衣見る花うき何もさ　み山
卯乃花の色ハ吹き迄く朝が月　松義
よき波を詠る涼しき海月哉　玉史
なつきりや小砂越く吹き館　加州 卜舟

宮うけ式無奥收録せるもの　蝶化

乙女姫相手にて　芦の根　八目

つゝ井筒あるゝ富士し清水山　芝川

めを砂ぬる紅つゝ井筒　宗知

手ゝ石や春乃蝶手はるゝすゝ　越中　琴弁

今歌のもゝ蓮うゝ豆の八ツ　玉馬

かゝゝまゝ後や　植式ゝ　馬丈

芦陸ゝ手ゝ珠の簀　江州　文義

葉ゝ手ゝの竹手ゝ書き答ゝ　信州　雲帝

部　久　天　乃川　金部ゝ　甲州　一の部

題　ゝ　ゝ梅の尾崎式時雨　黒沢

竹　部ゝの庵　近有二ヵ条　羽州　東鳥

乃ゝ小ゝ部ゝ何ゝ雲ゝ　杜宇　尾州　卓義

ゆゝ井ゝ山ゝ雲ゝ軒ゝ河部　江州　赤毛

部ゝ井ゝ部ゝ式ゝ　備前　何笠

月まちてやとりあらんかたきぬ　紀芳　帽石

夏ふかき山うまてかくれ　南明

ひの山乃山まこ山をほとゝきす　江戸　和世

簾まくやゆふすゝしてみまとをしら　サツヽ　嵐桂

湖乃みなそこうつる雲の峯　薩州　南枝

、

人を待もつるまてなるる小船乃　浜東山　案文

雑書やゝ蔭乃まうみ苦しう高　石村

十

、

ゆりのやくさうてゆきはらて鋼　黒吟　玻舟

蒸熱乃月　様子　遠乃奥之　素玉

りさうと乃牡丹まうはなうふ　文砂

ゝきこゝのしのしらく涼うれ　岐子

女子くもの蔭ゝ外る星の月秋ふ　新山

ゝのくもの法ゝみ様ゝ蛍の影　仙休

陰ふかき寝くらゝ星ふり　岌秀

初霜や立ちかの芝よ時　柳行

寒乃戸を叩し行る雁ぞ　文朝

あつきりの鳴きかの町乃ほとゝぎす　桑邑

雅雲舎や何姉ゝうる里祢芝　布遊

山ゝうちや手ゝ集まれ雲ゝる　藝東

釜飛ゝて寒ぬかてゝふ法ぬぎ　可涼

、

ちかゝ庵ゝ面ゝうちや年りる　秋卜

おゝうまれ時や秋のゝうゝ雲　、

夏乃秋や庵ゝ芝ゝ乃仏原　、

寛政三辛亥皐月

海老瀧屋

[illegible] 紫定

[illegible] 枝下

[illegible] 雅井

[illegible] 素丸

[illegible] 柳行

[illegible] 青秀

[illegible] 文朝

[illegible] 程邑

[illegible] 都山

[illegible] 岐子

[illegible] 楚東

[illegible] 馬原

[illegible] 仙休

[illegible] 有趣

宴乃終りて歌きく流るゝ　文坊
年　奥乃軍すとすゑまつるまて　錦川　玉史
陸奥乃国ゆ　帰京　柳眉
遠き義経乃古むかし　文
乃我ゆゑ弁慶乃追て　卜
きゝし神ゆ　丹
乃世月乃宴を一ぱゝ　玉
き人乃ゆ　行

行事もいとゝ　秀
二十日はゝ乃月乃　朝
乃ゆ　清廉乃ゝ　邑
葉も蔓も　山
月乃清き　子
緑成　東
七星乃神　涼
七久乃温泉乃　休

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]

秋

[illegible]月[illegible]　活　芦涯
[illegible]草[illegible]
[illegible]菊乃[illegible]に小菊[illegible]　一字
[illegible]秋小[illegible]　雲巖
[illegible]乃菓の張[illegible]　七夕　桃園
野[illegible]

鶯の谷川や花の下枝　宗吏
遠浦や海士の子なきの花　加州　竹之坊
稲妻の光り寒の月　兎文
山伏も引きかつぐ野　河青
雁の声ふるる縄の雪　古亜
塗りよく道乃あるや花枝　李荘
新酒や家の上の月　江州　曉子

ひとあるさく早の苗すゑ　ひき
夕あるや雲のとゝ雲の雨　鉄翁
ちるさくやきつゝ笠の雨　如泉
名月や猫と西の山の上　敬止
ゐる雨の月悲しとゝ雲も時　紙子　九坊
あけぬれば家の陰の川の面　美州　文雄
みるあるや行かきの小春庭　山州　良夫
新酒やうかくゝ加て猪の口　摂州　一の友

大きなる荷葉の袴　能州　百合

美しき小さき花さく刈田　玉虫

ゆるぎやすき小雪の乃頃　菅明

新米めさせ蒸さるる　帽生　呂陽

新しりや蓋石みる　比川

古さとや屋敷の中の伽勒尊　黒崎　素玉

十六

蓮会新川清きを新蓮山の奥　布楚

きらきらみや川波立きき新蓮　きん

新蓮乃神うしろ鹿蓮寺　寺泉

うつ蓮寺新蓮の軍や居蓮月　析行

かるきりは猪蓮夕神示　影山

つり部夫元合蓮男小蓮蓮　文弥

此寺や知も佛も新蓮兼　岐子

蓮の柳こまを洗しき初蓮　楚東

清月年ごとに見れども　仰休
紅葉ぞ昔の星月澄り酒　文朝
山本や庵禅に徳千年の秋　嵩涼
白雲の多の知らず左衍のお樓取　梨邑
山寺や朝に秋千時まもなく　麦秀

若葉ちるや露のまこと庭ふる慰　妓ト
篠乃戸に春雨と弱る情吟うれ

菊月や父ゆゆしく小雪

冬

元禄や宮山吟ぜん梅ぢ下（カ、） 松葉

月ぢ出ぢと時ぢ井こ毋ぢ田ぢ 蓬屋

眼乃ぢち千笠雪ぢ咲ぬ寒花 子皐

寒あさぢや叶ぢ寺乃嵐聲 賀山

時ぢのぢ四ぢと冬ぢ夕ぢ雪 琴市

竹きこえく子ぢ帰ぢ小舟ぢ 泊 案足

ぢ寒ぢや西ぢ山ぢ一雲ぢ上 白雲

迷ひ子千鶴ぢ鳴ぢ鶴ぢ 雷尺

山ぢ乃雲ぢ世ぢ信ぢや師ぢ宝 五雲

ぢ高雪乃中ぢち伊ぢ戸口ぢ 桃睛

夕風ぢや芦ぢ枯ぢ浦ぢ雪 雲裡

雪ぢ雲ぢや庭ぢ山乃朝鳥 百瓜

ぢ雪ぢう降ぢく時ぢ入江ぢ 素堂

杉風や立ち寄る蔭のたりけるに　世夢

、

陣屋に苔生て冴う軒　江州　思声

妹うとやし梓にてうち夕時雨　一葉

ふるの鹿丁ろまし海生嵐ぶ　五来

綿弓や畑打ち雪ちる山家の朝　播州　湖水

阿弥陀のやはらぐ山の朝霧　勢州　晴雲

風落乃出るの月ちる社重　限花　江涯

なむ形ちまとふ紅葉の秋ぶ　秋六

ぬしの門杉寺路乃秋ぶる　士門

かうまでもとうの唐の秋ぶ　越前　五林

二日月ちまとも秋ぶ雲の山　越後　竹茂

秋ちまとも秋ぶ三人ぶ　桃路

、

ちまと秋や春ちと桜ぶ際う屋　江戸　亜厚

陣中にこほるるや小春時　呉江

巨燈ともくれてきこえそめし　十三　完而

きりぎすや岩をはなれる蕎麦　越州　凡十

朝月や葛城ふかき川なみ　越州　竹雨

茅舎貧しき山をかすめる夕時雨　越中　蹄石

山寺やこまぬぎ上り夏柳　越州　文楚

野路の宵月孤り蛍を追ふ　玉史

萩咲くや風ふきよせる人の通　紀更

松の書院ふけ行く時雨哉　東也

萩ちるかたくなる小麦哉　李涯

沙羅の木葉ふるまぶ時雨哉　敏凡

うき世をいとふ仙のたもとはら　発句

雪の萩や蓋きは村よりのうゆる　柳眉

戸の透ぬ蔦ふかく枯柳　星涼

冴ふかし萩の柱の時雨哉　良和

浪除へ今朝の雪荒　柳汀
みちの行やもの乃こる入る豊　雲の皐
野の風や雲をとゝのふる乃新　雅井
ふるゝ〻ゝ雲ぬ月春ぶ　雪趣
杉杉や時雨ゝ来ぬ寺ぬ　文狗
志ゝ雲乃雲と雲ゝ雲本生　岐子
みぬ乃恒ゝ雪ゝ初時る　埜東
原屋雪ぬ波ま浦乃御ぶ　仙体

裡なく雲杉ゝゝ祝ゝゝぶ　文朔
岩燕ゝ雲ゝ息つく山路ぶ　弓涼
鈴ゝ我乃ゝ山路ぶ　素玉
何ゝ和ゝ鶯ゝ雪時る　麦秀
涼ゝ川ゝ岸ぬ丸書ぶ　梨邑
岩文ゝ雲ゝ旬の紙ふ山桜の新　新山

、

吹上ゝく杉山ゝ時るゝ　枝下

新説古按摩法破邪論

[illegible]

[illegible]

追加　雜混雜

[illegible]　江戸　[illegible]

[illegible]　武州　双鳥

[illegible]　房州　[illegible]

[illegible]　紀伊　[illegible]

[illegible]　江戸　蜀川

[illegible]　[illegible]　宣應

[illegible]　[illegible]　[illegible]

初まる梅米本より雪、古谷
けり杉や雪より山乃松蔭、鳥去
雪より雪二日乃月清雪(千形)茅里
晴や牧乃雪より雪ぬる雪、麻畑
ひらかまより雪あるる小松川(住形)茅二
春乃や雪の雪うる(浜)安古茅屋
雪雪より雪雪雪雪、土卯
ぜ雪より雪や雪晴ひらし雪、古谷

雪乃雪より入るん乃柳哉、杜桂
より雪より雪雪まる雪雪、伊左
雪乃雪より雪雪や松乃雪、雲之
杉乃松く雪雪雪雪雪雪(芳形)菅川
より雪雪雪雪雪雪(筑方)高峰
一日乃雪より雪雪乃雪(化形)井南
雪乃松雪より山口雪雪雪(武形)茅井
伊雪雪雪雪雪雪雪雪(伊)横二

[illegible]　筆石（備後）
[illegible]　磯清水、[illegible]原
[illegible]　松山（上毛）
[illegible]　嶽橋（出羽）
[illegible]　良文（陸奥）
[illegible]、[illegible]淵
[illegible]　一應（伊賀）
[illegible]　柏馬（陸奥）

[illegible]　本耳（紀州）
[illegible]　汀鬼（上総）
[illegible]　[illegible]菜（陸奥）
[illegible]、東菜
[illegible]　五明（伊賀）
[illegible]　[illegible]原（紀州）
[illegible]　[illegible]坂（陸奥）
[illegible]　柏生（陸奥）

[illegible] 一の社 (摂津)
[illegible] 立牛 (摂津)
[illegible] 尺樹 (下毛)
[illegible] 木履 (伊勢) 李朝
[illegible] 文星
[illegible] 富春 (上毛)
[illegible] 裏梅 (筑前)
[illegible] 涼秀 (佐渡)

[illegible] 桂 (摂津)
[illegible] 角峰 (筑前)
[illegible] 仙末 (津軽)
[illegible] 舟 (肥前)
[illegible] 百浦 (肥前)
[illegible] 梅乃花 (武蔵)
[illegible] 春香 (紀伊)
[illegible] 雪湖 (信濃)

[illegible] 甲州 石牛

[illegible] 石州 [illegible]

[illegible] はせを 一の敦

[illegible] 江戸 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

必擇半分元来壽之帶出之所以乃院傳而
男世来壽分筆生此之録于下傳以之統
月之統之獨也賜于近懐是之紹所之日
先月作筆當書不朱印之且人之未終其之一世
或之證人也之固或書之所藏之
而録紙今之日當而之欲而不遂敢好
於之懼乎諸自是己年未據所顧
之家赤之數筆中之統無及之補言

予之宝館錄音婦之引結能子近
竊撫保之矣於是父公翁讃余自謹
世維之昌所以興懐之者一朵余日
唯然即而以筆書倭歌而和之余徒
之雅許歎書於此警化之跋云

寛政壬子夏四月既望日

野々宮信宗謹跋

書林　京麩屋町通三條上ル
勝田吉兵衛　梓